

2020/5/27

森山大道の東京 ongoing

2020年6月2日（火）－9月22日（火・祝）

Moriyama Daido's Tokyo: ongoing | Jun. 2—Sep. 22, 2020

本展は諸般の事情により内容を変更する場合がございます。最新情報は当館ホームページをご確認ください。



森山大道『東京ブギウギ』より 2018年 ©Daido Moriyama Photo Foundation

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団では、Tokyo Tokyo FESTIVALの一環として、「森山大道の東京 ongoing」展を実施いたします。

スナップショットの名手として知られる、日本を代表する写真家・森山大道は、1960年代に写真家として活動を開始し、そのハイコントラストや粗粒子画面による作風は「アレ・ブレ・ボケ」と形容され、写真界に衝撃を与えました。以来、世界各国の美術館での大規模展、2019年のハッセルブラッド国際写真賞をはじめとする数々の国際的写真賞の受賞など、デビューから55年を経た現在も世界の第一線で活躍し続けています。

本展では、「ongoing（オンゴーイング）＝進行中、進化し続ける」をテーマに、今なお疾走し続ける森山大道がレンズを通してとらえ続けてきた街・東京を、カラーとモノクロの最近作を中心に展覧します。尽きることのない森山大道の写真の魅力をお楽しみください。

本展のみどころ

ハッセルブラッド国際写真賞受賞後、日本初の大規模個展

今、世界で最も活躍の著しい写真家のひとりである、森山大道は、1960年代に「アレ・ブレ・ボケ」と呼ばれる従来の写真表現を否定する急進的な表現の写真を発表し、写真界に衝撃を与えました。本展は、海外で数々の大規模個展に出品し、2019年に写真界のノーベル賞とも言われる「ハッセルブラッド国際写真賞」受賞後、国内の美術館において初めての大規模個展です。本展は、デビューから55年を経た現在も、常に自分自身を更新し続ける、森山の現在進行形の仕事を紹介します。

また、本展では個人写真誌『記録』の最新号からのプリントを展示し、会期中に継続的に展示替えを行います。Ongoingな森山大道の活動を間近に見ることのできる貴重な機会です。

写真家・森山大道の視線でとらえる「東京」

森山本人が「東京中をうろつく日々こそ、ぼくが写真を撮る意味のすべてなのだと感じる他ない」*と語るように、1964年のデビューから55年を経た現在も、日々、愛用のコンパクトデジタルカメラを手を街を歩き、東京の様相を撮り続けています。本展には、新宿ゴールデン街や池袋の路地裏など、森山作品を代表するディープなスポットから、渋谷スクランブル交差点、新宿駅東口、JR沿線など、東京で暮らす人々にとって身近な東京の風景が多数登場します。スナップショットの名手・森山大道の視点によって切り取られた東京風景は、私たちに新鮮な視点を与えてくれることでしょう。本展示室に広がる「森山大道の」東京風景にご注目ください。*森山大道「今日の三匹」、『K』より一部抜粋

カラー×モノクロ、鮮烈なコントラストでみせる展示構成

白と黒のコントラストが作品の特徴とされることの多い森山ですが、カラー写真も精力的に発表しています。本展では、「森山大道＝モノクローム写真」というイメージを刷新する、カラーによる最近作もご紹介します。森山が「歌舞伎町の看板みたいなペラペラとしたカラー写真が好きだから。」*と語る、独自の色彩に加え、リップ、マネキン、森山自身のポートレートなど、繰り返し現れるグラフィカルなモチーフが印象的な作品群にご注目ください。カラーとモノクロームの鮮烈な色彩対比によって構成される展示空間で、オリジナルプリントが持つ迫力をご体感ください。

*「森山大道×荒木経惟 隠喩としての影と陰」『コヨーテ』No.64 Spring 2018 p.49より



1



2



3



4



5



6

主な出品シリーズ

参照：武内厚子（東京都写真美術館学芸員）「出品作品シリーズ解説」、本展図録より



『記録』 1972-73年（第5号）、2006年（第6号）-ongoing

1972年7月に発行開始し73年オイル・ショックの影響をうけたことなどを理由に一旦中断、その後、2006年11月第6号が発行され復刊、以後現在に至るまで発行を続けている、ライフワーク的な個人写真誌。「記録」誌は、森山にとってライフワークであり、ストリート・スナップを続けるにあたっての「気持ちの大きな支え」、「大きな拠り所」としばしば表現され、森山の最も ongoing な表現を見ることのできるものである。

『記録 35号』より 2017年

『Pretty Woman』 2017年

2016-17年のあいだの1年間に撮影した280点によるシリーズ。

「ぼくの目線が見た東京俗物図鑑」*と森山が述べるように、カラー写真とモノクロ写真が混在する構成により粗い粒子のボリュームが織りなすグラデーションの連続が多様で混沌とした東京の空気と共鳴している。*森山大道「記録」第35号 2017年10月発行



『Pretty Woman』より 2017年

『K』 2017年

2017年3月から5月に撮影した写真によるモノクロ写真集として発表されたシリーズ。タイトルは風景の「景」を意味する。都会の繁華街から少し離れた路地を広角レンズによって撮影した写真を中心に構成されている。「写真はしょせん、スライスした表面だっていつも考えてる。特に『K』は寄らない、ずっと引く、ズラすことで、それができてくるのかもしれないと期待していたんだと思う」*と作家は語る。

*「森山大道 スナップを語る」『アサヒカメラ』2017年11月号 p.30 より



『K』より 2017年

『東京ブギウギ』 2018年

2017年以降の最新作カラー写真 200点を収録する写真集として2018年に発表されたシリーズ。東京にフォーカスした街角のスナップショット集。「とにかく全体をグラフィカルに、あるいはキッチンでポップに、ときにチープでエロティカルなイメージを中心にまとめてみたい」という森山の思いから生まれた。



『東京ブギウギ』より 2018年
すべて©Daido Moriyama Photo Foundation

出品点数 約 180 点予定

作家紹介

森山大道 | MORIYAMA Daido

1938年、大阪府に生まれる。デザイナーから出発し、1960年岩宮武二のアシスタントとなり、岩宮の紹介により1961年「VIVO」を目指して上京するが、「VIVO」解散のため細江英公の助手となり、『薔薇刑』（集英社、63年）の制作に携わる。1967年、『カメラ毎日』で連載したシリーズ〈にっぽん劇場〉などが評価され、日本写真批評家協会新人賞を受賞。1968-70写真同人誌『プロヴォーク』第2号より参加し、「アレ・ブレ・ボケ」と呼ばれる従来の写真表現を否定するラディカルな表現の写真を発表、衝撃を与える。一貫して路上から日常の断片をスナップショットで撮影、精力的に作品制作をおこなう傍ら、1974-80年にはワークショップ写真学校やイメージショップCAMPなどで多くの若手写真家を輩出した。1974年ニューヨーク近代美術館、セントルイス美術館、サンフランシスコ近代美術館などアメリカ国内を巡回した「ニュー・ジャパニーズ・フォトグラフィー」展に出品。1999年サンフランシスコ近代美術館において回顧展を開催、ニューヨーク近代美術館などを巡回。そのほか、2003年および2016年カルティエ財団現代美術館での個展、をはじめ海外での大規模な個展をはじめ、13年にはテート・モダンでウィリアム・クラインとの2人展が開催されるなど、国内外での展覧会多数。

【主な受賞】

2003年第44回毎日芸術賞受賞、2004年ドイツ写真家協会賞受賞、2012年国際写真センター（ニューヨーク）Infinity Award生涯功績賞、2019年ハッセルブラッド国際写真賞ほか多数受賞。

【主な写真集】

『にっぽん劇場写真帖』（1968年、室町書房）、『写真よさようなら』（1972年、写真評論社）、『遠野物語』（1976年、朝日ソノラマ）、『光と影』（1982年、冬樹社）、『犬の記憶』（1982年、冬樹社）、『ハワイ』（2007年、月曜社）、『犬と網タイツ』（2015年、月曜社）、『K』（2017年、月曜社）、『Pretty Woman』（2017年、Akio Nagasawa Publishing）ほか多数。



《三沢の犬》1971年

©Daido Moriyama Photo Foundation



『Pretty Woman』より 2017年 ©Daido Moriyama Photo Foundation

“写真とは時間を〈定着〉する行為である。決して世界を〈表現〉する行為ではない”

森山大道『写真よさようなら』より 1972年

関連事業

最新情報は詳細を決定次第、当館ホームページにて発表いたします。

展覧会図録

『森山大道の東京 ongoing』

森山大道によるメッセージテキスト、大竹昭子（作家）、甲斐義明（写真批評）による論考のほか、武内厚子（東京都写真美術館学芸員、展覧会担当）によるシリーズ解説、主な展覧会歴を掲載。

価格：3,300 円（税込）、版型：A4 変型判

発行：一般財団法人森山大道写真財団

6月2日(火)より全国書店およびミュージアム・ショップまたはオンラインショップで発売予定

NADiff BAITEN TEL.03-6447-7684

開催概要

展覧会名 [和] 森山大道の東京 ongoing

[英] Moriyama Daido's Tokyo: ongoing

主催 東京都 東京都写真美術館／東京新聞

会期 2020年6月2日（火）—9月22日（火・祝）[98日間] 予定

会場 東京都写真美術館3階展示室

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

電話 03-3280-0099 www.topmuseum.jp

開館時間 10:00—18:00 ※入館は閉館の30分前まで ※木・金曜日の夜間開館は当面休止いたします

休館日 毎週月曜日（ただし、8月10日、9月21日は開館、8月11日は休館）

※最新情報は当館ホームページをご確認ください

観覧料 一般 700 円／学生 560 円／中高生・65 歳以上 350 円

※小学生以下および都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。広報担当までご連絡ください。

- ・図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。
- ・図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。
- ・1点利用の場合は、表紙掲載図版《東京ブギウギ》のご利用をお奨めいたします。

東京都写真美術館 〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM 電話 03-3280-0034 / FAX 03-3280-0033 / www.topmuseum.jp

展覧会担当 武内厚子 a.takeuchi@topmuseum.jp / 遠藤みゆき m.endo@topmuseum.jp

広報担当 平澤綾乃 池田良子 岡田なつき press-info@topmuseum.jp